

I 児童生徒が身に付けられるようにしたい資質・能力

平成 29 年 3 月に告示された小学校学習指導要領及び中学校学習指導要領は、子供たちが未来社会を切り拓くために必要な資質・能力を一層確実に育成することを目指しています。

今回の改訂では、知・徳・体にわたる「生きる力」を子供たちに育むために「何のために学ぶのか」という各教科等を学ぶ意義を共有しながら、授業の創意工夫や教科書等の教材の改善を引き出していくことができるようにするため、全ての教科等の目標及び内容が「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で再整理されました。

【育成すべき資質・能力の三つ柱】

学びに向かう力、人間性等

どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか

「確かな学力」「健やかな体」「豊かな心」を
総合的に捉えて構造化

知識及び技能

何を理解しているか、何ができるか

思考力、判断力、表現力等

理解していること・できることをどう使うか

II 主体的・対話的で深い学びを実現するために

1 主体的・対話的で深い学び

子供たちが、学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするためには、これまでの学校教育の蓄積を生かし、学習の質を一層高める授業改善の取組を活性化していくことが必要であり、優れた教育実践に見られる普遍的な視点である「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進することが求められています。

主体的な学び

学ぶことに興味や関心をもち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる学び

対話的な学び

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める学び

深い学び

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう学び

2 本校が育む児童生徒の姿

自校の児童生徒が主体的・対話的で深い学びを通してどのような姿を見せることを目指していますか。これまでの自校の取組や児童生徒の姿を振り返り、児童生徒に育みたい資質・能力を組織で共有しましょう。

学校教育目標

目指す児童生徒像

本校の児童生徒の現在の姿

これまでに蓄積してきた本校の教育活動

本校の児童生徒に育みたい資質・能力

3 単元（題材）を意識した授業づくり

(1) 単元（題材）の指導計画を作成しましょう。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を考えるためには、まず、単元（題材）など内容や時間のまとまりをどのようにデザインするかということが大切です。単元（題材）を通して教科の見方・考え方を働かせることで、どのように学習が広がったり、深まったりするのかを想定し、指導計画を作成しましょう。

① 単元（題材）の指導目標を明確にする。

- ア 学習内容
- イ 見方・考え方，育てたい資質・能力 等

② 教材観，児童生徒観，指導観を具体的に書き表す。

- ア 教材観
 - 学習指導要領解説や教科書の記述内容
 - 他学年との系統や他単元との関連 等
- イ 児童生徒観
 - 各種学力調査の結果
 - 単元に関わる学習状況 等
- ウ 指導観
 - 児童生徒の実態に応じた指導の在り方 等

単元（題材）の終末に見られる児童生徒の姿（何ができるようになったか）をしっかりと想定し，そこから指導計画を作成することを大切にしましょう。



③ 単元（題材）の指導計画，評価計画を立てる。

- ア 指導計画
 - 自身の学びや変容を自覚できる場面の設定（見通しと振り返り）
 - 自分の考えなどを広げたり，深めたりする場面の設定（対話）
 - 児童生徒が活動し考える場面と教師が教える場面の設定
- イ 評価計画
 - 多様な評価方法の設定
 - 補充指導等の位置付け
 - 単元（題材）計画の評価 等



単元（題材）で定着する力を問う評価問題を作成したり，単元（題材）内容に関連するこれまでの各種学力調査等の問題を確認したりすることで，児童生徒が何を学び，何を考えるのかを明らかにすることも，単元（題材）をデザインする際に大切なことです。

(2) 単元（題材）の目標を達成する授業案を作成しましょう。

4ページ

指導計画の中で本時がどのような位置付けにあるのかを確認し，その目標を達成するための授業を設計しましょう。

① 本時の指導目標，評価規準を具体的に書き表す。

② 本時の学習活動，指導上の留意点，評価規準及び評価方法，努力を要すると判断される児童生徒への手立てなどを具体的に書き表す。

授業の山場はどこであるのかイメージを明確にした上で，どのように授業を展開するのかを考えることも大切です。

【協議の視点】

- 単元，題材や授業のゴールをどのようにイメージしているだろうか。
- 児童生徒が考える場面と教師が教える場面をどのように設定しているだろうか。
- 目的に沿った指導方法や指導上の留意点はどのようなものがあるだろうか。
- 目標と対応した評価活動にするためには，どうすればよいだろうか。